地球環境基金助成金

要望書の書き方講座

基礎編
～ロジックモデルの作成～

独立行政法人 環境再生保全機構

地球環境基金部

ロジックモデルの構成

未来

上から下へ組み立てる

未来へのストーリーを意識して見直す

現在

上位目標

活動対象の地域に起こる変化など
最終的に実現したい状態

アウトカム

活動により**実現が期待される変化**
・効果（状態）

アウトプット

活動により**直接生み出される成果**

活動計画

具体的な活動内容

上位目標　設定のポイント

- 活動対象の地域に起こる変化など**最終的に実現したい状態**を考える。
- 活動の背景にある問題意識「誰の、どんな問題を解決したいのか」を具体的に突き詰めて考えることがポイント。

例えば、サンゴの食害を減らす活動をするのであれば、直接的な目的は「有害生物を駆除して食害を減らす」こと。

それは何のためかを

突き詰めると・・・

「○○地域におけるサンゴの生息域が保全される」

こととなります。

これが上位目標です。

アウトカム　設定のポイント

- 活動により**実現が期待される変化・効果**　を考える。

例えば、サンゴの例であれば、サンゴの生息域が保全されるという上位目標に向かって

1. 有害生物の数が８０％減少する。
2. サンゴ礁が６０％復元する。

といったことが実現が期待される変化・効果であるといえます。

さらに、研修などを行ってサンゴ生息域保全の担い手を増やす活動も併せて行い、

3. サンゴ保全の担い手が増加する。

といったこともアウトカム目標となります。

アウトプット　設定のポイント

- 活動により**直接生み出される成果**　を考える。

サンゴの食害を減らす活動であれば、それぞれのアウトカムに対してアウトプット目標は次の通り。

1. 有害生物の数が８０％減少する。

   ↑有害生物を年間500kg駆除する

   ↑駆除活動に50人参加する

2. サンゴ礁が２０％復元する。

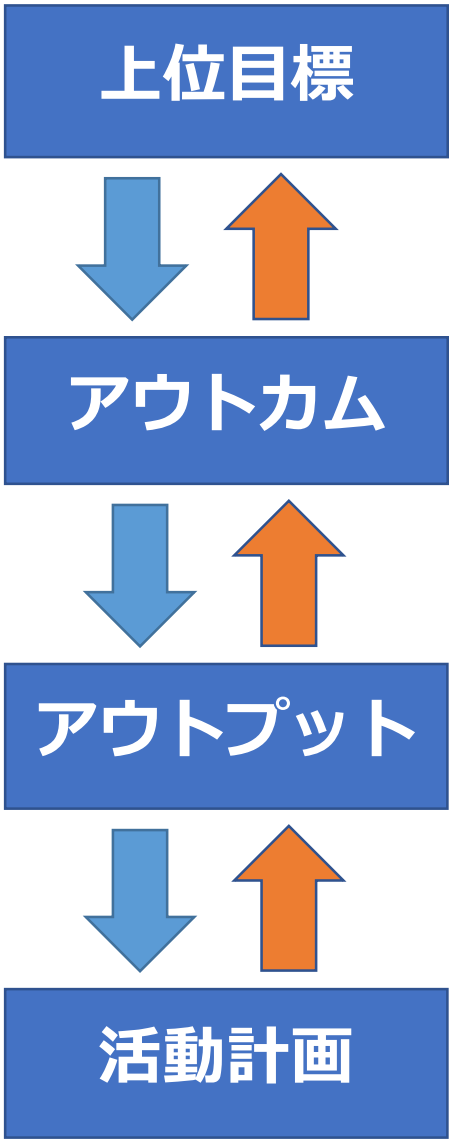
   ↑サンゴ植樹を2ha行う

3. サンゴ保全の担い手が増加する。

   ↑研修20人参加

といったことがアウトプット目標となります。

ロジックモデルについて学ぼう



活動により実現が期待される変化・効果

例：サンゴの生息域が保全される。

助成活動終了時に実現が期待される状況

例：サンゴ礁を食害する有害生物の数が
○%減少する。

活動により直接生み出される成果

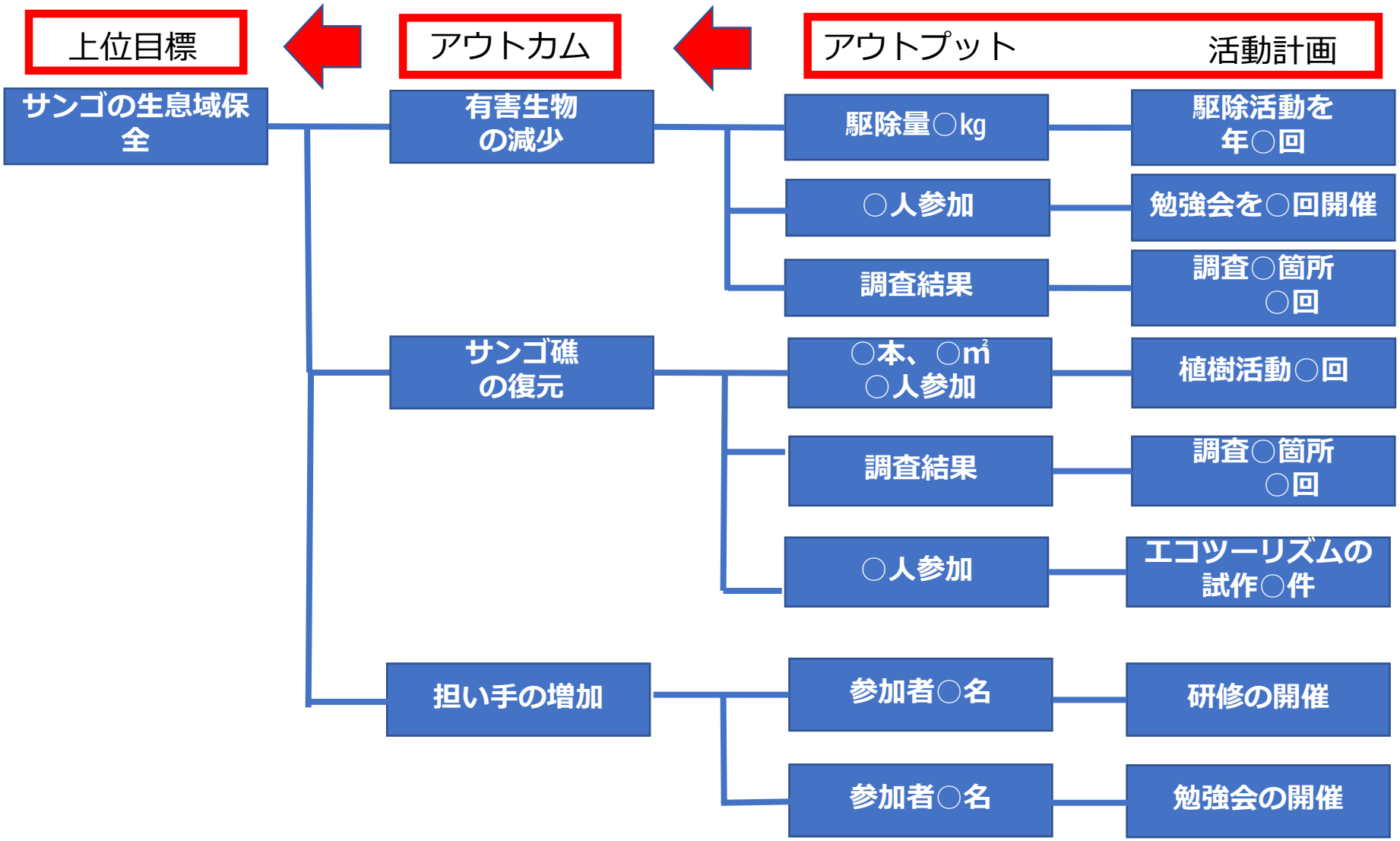
例：①駆除量○kg
②参加者○名
③○箇所の調査結果レポート。HP掲載

具体的な活動内容

例：①有害生物駆除活動を年○回実施
②駆除方法に関する勉強会 年○回実施
③現地調査○回実施

３つの情報を整理すると（ロジックツリーの構築）

ロジックツリーとは、上位目標に対して複数のアウトカムでロジックモデルが成り立った系統図のことです



交付要望書　様式その2-2

募集案内
(P.44～47)

その２－２　〔助成を希望する活動の内容〕

⑤　上位目標及び活動計画

（１）本助成活動が目指す最終的に実現したい望ましい環境の状態（上位目標）

上位目標の達成にどれだけ近づいたか

（２）上位目標の実現に寄与する望ましい成果（アウトカム）

何で成果を測るか

アウトカムの達成度（実績値）

（３）アウトカムを達成するための直接的な活動目標（アウトプット）及びアウトカムを達成するための具体的な手段（活動計画）

活動１（　　）

○活動計画	○アウトプット（目標）
（１年目）	
１年目　達成できたこと（アウトプットの実績値を含む）	
（２年目）	
２年目　達成できたこと（アウトプットの実績値を含む）	
（３年目）	
３年目　達成できたこと（アウトプットの実績値を含む）	

上位目標
活動対象の地域に起こる変化など、この活動で最終的に実現したい状態

アウトカム
助成活動終了時に実現が期待される状況

アウトプット
活動を行うことにより直接生み出される結果

活動計画
具体的に実行・実施する活動

地球環境基金の採択のポイント

募集案内（P.31～33）

	高く評価するもの	不採択になるもの
計画性	• アウトカム、アウトプットが明確で指標が設定されているもの • 現状や裏付けとなるデータがあるもの • 事前事後の振り返り、改善状況の記載があるもの	• 目標達成のための全体計画を有していない • 継続要望の場合、評価専門委員のアドバイスを考慮していない
自立性	• 助成終了後の活動の展開や制作物の活用方法が明確で、自立していく道筋があるもの	• 物品資材の購入ばかり • 持ち回りのイベント • 他団体への委託が多い
連携・協働	• 自分たちだけでなく、地域や企業、行政などと連携・協働し、巻き込み、活動しようとするもの	• 自分たちだけの活動に固執し、課題解決のため住民に理解を求めたり、巻き込んで活動したりしないもの
必要性	• 活動対象地域の現状、ニーズ及び問題点を客観的なデータを基に把握し、活動の必要性及び実施方法が明確であるもの	• 先行した類似の助成対象活動が複数ある場合や過去に助成を受けた活動と同一の活動に対する助成の場合
波及力	• 調査研究は、その結果を広く普及する仕組みを考慮しているもの • 政策提言活動は、その成果を確認することができるよう、発信先や発信方法を明確にするもの	

ご視聴ありがとうございました。
このあと「応用編」もぜひご覧ください。

応用編
ロジックモデルを活用する